

会 議 録

会議の名称	平成29年度第5回 病院運営審議会		
開催日時	平成30年(2018年) 2月13日(火) 13時30分 ~ 15時30分		
開催場所	市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 総務企画課	傍聴者数	0人
公開しなかつた理由			
出席者	委員	天野陽子、角本典子、澤村昭彦、高鳥毛敏雄、多田耕三、浜田恭介、真鍋哲也、山口育子、渡邊太郎	
	事務局	病院事業管理者 小林栄、総長 眞下節、病院長 堂野恵三、副院長 東孝次、副院長 嶺尾郁夫、副院長兼看護部長 藤田幸恵、医務局長 巽千賀夫、中央診療局長 稲田正己 薬剤部長 村田充弘、看護部次長 木本正美、医療安全管理室長 中上紀子、医事課長 中村卓、施設用度課長 津川昌夫、がん相談支援センター長 細貝徳子、地域医療室長 甲斐智典、リハビリテーション部長 古志康則、地域医療室主幹 下雅意陽子、医療安全管理室主幹 杉山眞紀、総務企画課主幹 鷺見一馬、総務企画課主幹 城戸篤、総務企画課長補佐 入江基宏、医療情報室情報システム係 佐々木啓充	
	その他		
議題	(1) 平成29年度病院業務状況の報告について (2) 平成30年度事業計画(案)について (3) 市立豊中病院運営計画(平成30年度~平成34年度)及び実施計画について (4) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中9人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者なし

●議案審議

- 1) 平成29年度病院業務状況の報告について
- 2) 平成30年度事業計画（案）について
- 3) 市立豊中病院運営計画（平成30年度～平成34年度）及び実施計画について
- 4) その他

●審議結果

1. 平成29年度病院業務状況について事務局より資料に基づき説明 【資料1】【資料2】

《質疑応答・意見等》

1. 豊中市の高齢者数はどのような状況か。

市立豊中病院運営計画（平成30年度～平成34年度）に「豊中市の人口推計」を載せているが、老年人口（65歳以上）は、今後増加していく傾向にあり、市の総人口が減少に転じる平成37年（2025年）以降も引き続き増加する見込みである。

2. 1日あたりの救急患者数は昨年度と差はないが、緊急入院患者数が増加している要因はなにか。

今年度は、昨年度と比べると重症の救急患者が増え、緊急入院につながっている。昨年度は軽傷の救急患者が多く、例年と比べると緊急入院患者が少なかった。

3. 外来化学療法業務件数が昨年度と比べて309件の増加となっている要因はなにか。

詳細は分析できていないが、昨年度と比べると血液内科で外来化学療法件数が大きく増加している。

4. 平成29年度病院業務状況（資料1、2）について、市立豊中病院が、どのような傾向や問題があるかについて議論するためには、ポイントを解説した資料があると分かりやすいのではないかと。

現状分析や課題分析については、複合的な問題が絡んでおり、断定的に要点を絞るのが難しい部分もあるが、なるべくわかりやすい表現で解説を加えたい。

5. 4月～12月の実績は、運営計画・実施計画に対してどのように評価されているのか。また、1月～3月まで予定通り推移する見込みであるか。

資料1、2は、当院の年間を通じた外来や入院、その他業務の実績状況を示す資料であり、現運営計画・実施計画に掲げた取組事項に対する評価は、今年度の実績が出た後、7月に予定している病院運営審議会で報告する。

2. 平成30年度事業計画（案）について事務局より資料に基づき説明【資料3】

《質疑応答・意見等》

6. 平成30年度事業計画（案）（資料3）は、市立豊中病院運営計画（平成30年度～平成34年度）とどのように関連しているのか。

資料3は、当院の平成30年度予算（案）を中心とした説明となっている。運営計画の具体的な取組みを定めた「実施計画」を反映したものとなっており、主なものをピックアップして掲載している。

7. 実施計画で設定した取組みの単年度計画を説明した資料が示されると、審議会で評価や議論がしやすくなると思う。

8. 次年度の重点項目と予算案との関連性をわかりやすくするため、重点項目については、次年度の取組内容を示してほしい。

9. 平成30年度に診療報酬が改定されるが、資料3の平成30年度予算（案）には、どのように反映しているのか。

平成30年度予算（案）の数値は、予算や人員要求について行政上の時間的制約があるため、診療報酬改定の答申前に作成したものであるが、調整をしながら事業を進めていく。

今回の診療報酬改定の主な変更点として、「一般病棟入院基本料（7対1、10対1）」が「急性期一般入院基本料（1～7）」に変更されるが、当院としては、引き続き急性期一般入院基本料1（現行の7対1入院基本料）を維持していく考えである。

10. 資料3の平成30年予算（案）については、どのように試算しているのか。公立病院は、在院日数の短縮や地域連携の推進などの改革を求められており、患者数等は改革に対応した見込みとなっているのか。

平成30年度予算（案）については、入院収益を中心に、病床利用率や患者数、診療単価を踏まえ、黒字化を基本に費用面とのバランスをとりながら作成した。患者数は平成29年度の実績から試算し、診療単価を上げることで収益確保を目指している。

3. 市立豊中病院運営計画（平成30年度～平成34年度）及び実施計画について事務局より資料に基づき説明【資料4】【資料5】【資料6】

《質疑応答・意見等》

11. 国が地域包括ケアシステムや在宅医療の推進を図っているが、実施計画の個別活動プランでは、市立豊中病院が中心となって推進しているようには見えない。地域包括支援システムについての豊中病院のビジョンを示したほうが良いと感じた。

地域包括ケアシステムは、医療だけでなく介護や生活支援、まちづくりなど総合的に市全体で取り組む必要がある。当市では、健康福祉部が中心となって取り組んでおり、当院も積極的に参画していく。

12. 平成34年度までの5年間の目標を示しているが、この5年間で社会情勢や医療環境が大きく変化することが予想される。実施計画の個別活動プランも社会変化に合わせて変更していく必要があると思う。

個別活動プランについては、社会情勢や医療環境の変化に合わせ、必要に応じて更新していく。

13. 地域医療連携ネットワークシステムの運用について、当面は、地域のかかりつけ医が豊中病院の情報を取得できる一方通行の運用でいくのか。また、画像連携システムの更新について、主な取組みとしてあげているが、既存の連携検査機関以外にも連携対象となる検査機関を増やしていくことを考えているのか。

近隣でも既に複数の医療機関が地域医療連携ネットワークシステムを導入しているが、現時点では、当院のシステムも他院と同様、自院の診療情報を他の医療機関が閲覧できる一方通行のシステムである。今後情報提供可能なシステムを導入する医療機関が増えれば、双方向に連携できる可能性がある。

画像連携システムについては、画像診断を依頼することが多いMIクリニックでの画像データを当院が閲覧する別個のシステムである。

14. 個別活動プランの取組スケジュールや進行管理部門、実施にあたっての予算等については検討されているのか。

個別活動プランの作成は、進行管理部門が主となり、5年間の年次スケジュールや目標値を設定している。また、個別活動プランは平成30年度予算（案）に盛り込んでおり、平成31年度以降も5年間の収支計画となる「財政計画」に反映している。

15. 目標に数値を掲げているが、医療と介護の連携や、医療情報の連携は、数値化できない問題もあり、数値だけで評価するのではなく、連携の中身を評価できるようにすると良いと思う。

4. その他

- ・ 今年度の病院運営審議会は今回が最後となる。また、委員の任期が本年6月までのため、任期中の開催も今回が最後となる。
- ・ 来年度第1回病院運営審議会（7月）までに新たな委員を選任する予定。

<以上、終了>